

# 日本看護歴史学会

## 会報

日本看護歴史学会  
第 28 号  
1997年10月15日

### 第十一回日本看護歴史学会に参加して

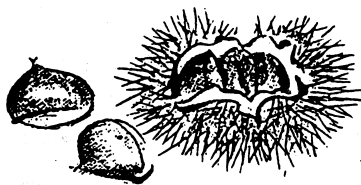
赤澤 彌子

第一回日本看護歴史学会は、一九八七年の八月二十六日に、京都市立看護短期大学で開催されます。十月十五日づけで出された創刊号に、亀山美知子氏の「豊かな創造性を求め、新たな息吹を」の巻頭言が掲載されています。本学会でも亀山氏は、「若い後継者の育成」を提言されていました。若いエネルギーが日本の看護歴史を発展の方向に牽引してくれることを期待したいと思います。その息吹を、今回の大石杉乃氏等の発表に感じ、このような研究者が多く育ってほしいと思いつながら聞いていました。筆者より年上とは到底信じられない歯切れの良い語り口の別所智恵子氏の「保良せき（厚生省医務局初代看護課長）」

に関する逸話を聴きながら、伝記を書くのは半生の仕事で、片手間にやることではなく、自己と向き合うことでもあると思いつながら聴きました。「研究より総説を」の思いと重ねながら考えていました。今回のメインテーマは、「保健婦助産婦看護法五〇年の証言」です。看護教育模範学院という歴史的な所産である学校に学び、戦後の看護改革に関心を持つ者としては、聞き逃せないテーマでした。戦後の歴史の生き証人である金子みつ氏（元厚生省看護課長）の「当時、終身免許は医師と弁護士だけだったが、保健婦助産婦看護婦も終身免許を取得できるようにした」こと等、厚生省等上層部と現職の看護職者との意識のずれか

らくる混乱、悩み等大変な努力のなかから、看護制度の基礎が築かれていったのがよく判りました。その頃の記憶として鮮明なのは、私たちが新しい看護を創るのだと瞳を輝かしていた先輩看護婦のまぶしいくらい生き生きとした姿です。「褥瘡は看護婦の恥」の先輩の言葉が脳裏に焼き付いています。分科会では、長年戦後の占領政策と看護改革の研究に取り組んでこられたライダー島崎玲子氏の話題提供グループに入り、マッカーサー元帥の指名でGHQ衛生教育福祉課長に就任し、その後公衆衛生と教育を分離させ、公衆衛生福祉局長となったサムス・クロフォード准将の考え方が看護改革に与えた影響について興味深く拝聴しました。特に看護教育が厚生省管轄になった理由について、長年の疑問が解けました。各分科会の報告のなかで、第4分科会の「日赤看護婦留学第一号田淵まさ代の人物と生涯」の報告のなかで、田淵まさ代氏が日赤看護婦の津田英語塾への留学をすすめたという内容にハッとしました。というのは、早川かつ氏（藍野学院看護短期大学名誉教授・ナイチンゲール記章受賞）が駿河台女学院英語高等科に内地留学し昭和十四

年に卒業されています。一九六一年にメルボルンで開催された第十二回国際看護婦協会大会に参加し、ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」に大きな感銘を受け、当時勤務されていた大阪赤十字病院の看護婦にいち早く紹介し、看護婦たちは購入した何冊かを表紙がボロボロになるまでみんなで回し読みをしたとのこと、外国文献に目を通し、先を見通した提言で大阪の看護界に与えた影響ははかりしれない位大きい。あの昭和の初期に英語を学ばせに内地留学させた赤十字社の考えについて何となく脳裏に引っかかっていた疑問がとけました。先輩諸師のお元氣な姿に接し、知的探究の旅の爽やかな余韻に浸ることができたことを感謝しています。



# 第十一回大会報告

幹事 福本 恵

第十一回大会は、本年が保健婦助産婦看護法(以下「保助看法」)が施行されて五十年目の年に当たるため、保助看法五十年記念大会と銘うって開催した。第一日は「保助看法五十年の証言」をメインテーマとして保助看法制定当時のことを金子光氏、岡山県モデルスクールの草創期のことを神秀子氏、京都市の保健婦事業を中心とした看護行政のことを林みどり氏に御証言頂いた。さらに、当時の厚生省看護課長「保良せき氏」と伝記作家として親交のあった別所智恵子氏にご講演頂いた。この中で法律制定当時の中央と地方の動き、看護教育と行政の関連、GHQとの対応等エピソードを交えた証言を拝聴し、当時の状況を伺い知ることができた。二日目は大石杉乃氏の研究発表を皮切りに続いて「保助看法の制定当時を振り返って」と題し、前述の四氏による放談会に入った。質疑応答、意見交換が時間いっぱいまで熱心に続けられた。参加者それぞれの問題意識・研究課題の交流があり有益であつた。

会員総会では、昨年からの懸案事項であつた「特別会員制度」の導入について提案、審議された。前号に登載した特別会員規則に基づき、本総会の場において公告したとみなして(初回のみ)承認されました。本会初の特別会員は、看護の歴史上、有用な時代の証言者であられる金子光氏そして大森文子氏です。両氏の今後益々のご健勝をお祈りしつつ、特別会員として看護歴史研究の充実・発展にご協力賜われることを会員一同多大の慶びとするものです。

会計報告では、今年度会費収入が増加、数年分の滞納が改善されつつあるという報告があり、安堵したムードが漂った。会の発展に財政基盤の安定は不可欠であることとを改めて実感した。

その他の決定事項は次のとおり。  
 会計監督：平塚 朝子氏(関東)  
 日隈ふみ子氏(関西)

第十二回大会  
 開催地：別府(大分県)  
 地元担当者：江崎フサ子氏  
 (大分医大看護学科)  
 開催時期：平成十年八月  
 詳細は次号会報にて公告予定。

日本看護歴史学会 1997年度予算案

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
前年度繰越金	801,931		434,389
会費	680,000	170名×4,000	1,114,000
寄附金その他	50,000		70,369
合計	1,531,931		1,618,758

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
事務経費	250,000		186,961
印刷費	(40,000)		(32,865)
通信費	(160,000)	会報 3回 学会誌 1回	(149,998)
文具、その他	(50,000)		(4,108)
幹事会開催費	160,000		155,666
出版費	400,000		474,200
会報発行費	(100,000)	年3回	(82,800)
学会誌発行費	(300,000)	年1回	(391,400)
会員名簿費	0	(1回/3年)	0
分科会費	20,000		0
予備費	701,931	学会誌10号(96年度)	0
合計	1,531,931		816,827

日本看護歴史学会 1996年度会計報告

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	434,389	434,389	0
会費	680,000	1,114,000 会員 266口 新入会員 12口	434,000
寄附金その他	50,000	70,369 会誌等売上(70,000) 利息(369) 寄附金(0)	20,369
合計	1,164,389	1,618,758	454,369

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	決算額	差引額
事務経費	250,000	186,961	63,039
印刷費	(40,000)	(32,865)	
通信費	(160,000)	(149,988)	
文具、その他	(50,000)	(4,108)	
幹事会開催費	150,000	155,666	▲5,666
出版費	300,000	474,200	▲174,200
会報発行費	(100,000)	(82,800)	
学会誌発行費	(200,000)	(391,400) 24号 10,300 25号 30,900 26号 20,600 27号 21,000 学会誌9号(391,400)	
会員名簿費	0	0	0
分科会費	20,000	0	20,000
予備費	444,389	0	444,389
合計	1,164,389	816,827	347,562

次年度への繰越額  
 収入額1,618,758円 - 支出額816,827円 = 801,931円

(会計監査報告)  
 監査の結果、上記報告書は日本看護歴史学会の1996年度の収支を適正に表示していることを認めます。

平成9年8月1日 会計監査 伊賀重子  
 平成9年7月17日 会計監査 金子悦子

分科会報告

担当者 山崎雅代  
高田節子

分科会は第二日目の午前十時から十一時三十分まで四分科会で開催。話題提供者による発表と質疑応答・意見交換。その後、一堂に集まって全体会議。四分科会での概要を報告というのが当日の時間の経過である。

十一回目になると、顔なじみになった参加者が多く、ハツとする新鮮な質問、気づかなかつた意見に教えられ、終始なごやかな雰囲気でもたれ多くの収穫をあげることができました。各分科会から出された内容を報告致します。

一、「日本占領政策と看護改革」  
\*ライダー 島崎玲子

公衆衛生福祉局長 サムス・クロフォード准将の背景と医療にたいする情熱と信念がどのように看護改革に影響を及ぼしたか、現在の看護教育制度はどのような根拠で実施されたか第一次史料で説明した。今後どのように制度を改革しよりよいまた効果的な看護を実践するかの検討は時間がなくできなかつた。

二、「昭和初期の京大病院と看護婦の状況」  
\*富岡 みさを

昭和二年から十四年まで、京大病院に在職した永井トシエ氏より聞き得た情報と荒木操の史料を中心にまとめました。この時代には三代目総婦長の高橋ミチが活躍した時期であり、史料収集がまだまだ不十分で、当時の状況が見えて来ない。今後更に史料発掘に努めたい。

三、「明治期の家族看護の実態報告」  
\*内藤 直子

明治の家族看護を看護職が記述した日本最古の月刊専門誌「助産の葉」で討議された。明治の家族看護（在宅訪問看護）の実態を一次史料で輪読し、史料内容の類型化、研究史料の所在と閲覧等が意見交換された。今後、本歴史学会員相互に、各研究者が所有する史料データ・史料のデータ化の協力

日本看護歴史学会第11回大会  
収支決算報告書

		(単位 円)
< 収 入 >		304,000
大会参加費		
会 員	72名 × 3,000 =	216,000
非 会 員	19名 × 4,000 =	76,000
学 生	6名 × 2,000 =	12,000
懇親会参加費	(55名 × 1,500)	82,500
合 計		386,500
< 支 出 >		
講師謝金・お車代 (4名分)		375,000
講師宿泊費 (3名分)		19,057
講師食事代・接待費		29,618
会場使用料 (付属設備使用料含)		97,500
雑費 (事務経費・印刷・消費税含)		12,607
ボランティア・幹事昼食代		19,300
懇親会費		83,622
合 計		636,704
< 差 引 >		386,500円 - 636,704円 = -250,204円
< 残 高 >		
前年度までの繰越金	692,832	
本年度不足分	-250,204	
	442,628 (次年度に繰越)	

(会計 玄田公子, 大平政子)

およびその方法に関して、参加者十四人の関心が見られた。

四、「日赤看護婦留学第一号 田淵まさ代」  
\*高田節子 塚原浩子 田村典子

今回はまさ代の英語学習に強く影響を及ぼした恩師竹内文を中心報告。まさ代(一八八五-一九七六)については会報十七号で報告済。文(一八六八-一九二一)

は神戸英和女学生の時、洗礼を受け卒業。私立津山女学校を経営し、当時としては珍しく英語や養美歌、ダンスを取り入れた特色ある教育を行う。まさ代はその女学校を明治三十七年卒業、日赤看護婦養成所へ、文もまさ代も東京で住み親交を深めている。(文の次男はコナン・ドイルの(シャーロック・ホームズ) 翻訳家延原謙)

## 今年の参加者の 動向について

亀山 美知子

毎年のことながら、私共の学会は夏の暑い盛りに開催される。昨年の大会は山形市内であったが、盆地気候のことでもあり、暑い暑い日に開催された。今年もまた、京都で暑い日に、八月八・九日に大会が開催されることになった。

この大会の会場については、当初は京大医療技術短期大学部で開催することに賛意が集ったのだが、結果的に部長から「冷房設備がないから、年配の人の健康にかかわる」とまで言われ、仕方なく京大会館を使用することになった。尤も、幹事の中からは大学等の施設の使用を支持する意見も出初めている。

さて、今回ほど事務局や私共が不安を抱いた大会もこれまでになかった。参加者数の大幅な落ち込みが冒頭から見られたからである。実のところ、本会の会費収入は大幅に落ち込んでいるからである。会員諸姉等の御協力を重ねてお願いする次第である。

さて、今年の参加者数は八〇数名であったが、その中には当日参加の方々も多かった。その中では愛媛から参加された鈴木ルリ子氏や、沖繩から毎年のように参加される伊敷和枝氏等がおられる。それに加え、知人友人を誘って来られる方々もおられる。このような方々（非会員を含む）は、私達にとって有難い存在である。

話は変わるが、大会後の会員の方の一人の感想があった。要するに本会は和気藹々の雰囲気と悠長さがある、と云った内容である。当然ながら、歴史を研究するのは悠長な作業になる。それについては『看護教育』八月号に掲載していただいたので、お読み頂ければ幸いです。ついでながら、今もって、幹事でさえも、歴史の史料を「資料」と間違って書く人が目立つ。例え看護史であっても、矢張り、歴史を学び研究を志す人であれば、知識として認識して欲しいものである。

今年の研究発表は、中島憲子氏の「一九世紀イギリスの婦人衛生協会と医学界との関係について」として、社会医学の立場から発表された。また、平塚朝子氏等の山形県の保健婦グループ（十五日会）

による「山形県の初期の保健婦教育を探究する」は興味深いテーマであった。同様に山口貴美子氏は「秋田県における保健活動について」及び、松尾光恵氏の「佐賀県における看護教育のはじまり——佐賀県立病院における看護婦養成教育」であった。

尚、これらとは別に大石杉乃氏による関連報告として「オルト課長の関わったGHQ」が紹介された。

さて、本会も今年で十一年目の歳月を経たことになる。私共の会は、他の学会に比べると会員数が大幅に小さい。しかし、だからこそ会員間の交流が容易となる。その一面では、私共の長年の歩みを確認する上での指標として、若い会員が育っているか否かが問題となる。

次世代に伸びて貰わなければ、看護職の長い長い歴史が、再び埋もれてしまうことになる。歴史教育が全体的に後退している今日、私共の会は埋もれた記憶を次の世紀に伝承せねばならない使命があると云って良いだろう。過去とは、単に過去として失せるものではなく、教訓性を包含しているものである。その典型的な事象は、人類の歴史中、最も悲惨な戦争の歴史

である。

今回の発表者、及び、関連報告者について気になったのは、視覚的手法（OHPやスライド）による発表であった。何故、私たちがこの発表方法について気になったかと云うと、視覚的な媒体の持つ力は、口頭での説明より人々の印象を強力に刷り込みをもたらすからである。

苟も、歴史を学ぶ者としては、書かれた史料等を全面に出して貰いたいものである。

確かに歴史研究者の中でも考古学等の分野では図を提示していることが多いが、他の時代区分中では、メディア媒体を使う場合の理由は、ある物（人）の変節等について具体的に示さねば、参加者が納得出来ない場合に見られるに過ぎない。

私共の会も次の一〇年後には、現在の若い世代の研究者が育ち、多くの研究業績を出せるようになることを期待したいものである。尤も、今や看護界はネコも杓子も、大学・短大での業績作りに奔走している人々が多いようである。だが、研究とは簡単に身につくものではないのである。



新入会員について

- 山口貴美子 (No.96-013)
- 〒010-14 秋田県上北手猿田
- 宇苗代沢一七-三
- 日本赤十字秋田短期大学
- (〇一八八-二九-三〇〇〇)
- 上田代恵子 (No.97-001)
- 〒470-01 愛知県愛知郡東郷町
- 諸輪米ヶ廻間二八〇-二
- (〇五六-一三-八-九-二八)
- 中島 憲子 (No.97-002)
- 〒616 京都市右京区常磐仲町
- 一八-二〇六
- (〇七五-一八七-一-一五九〇)
- 城丸 端恵 (No.97-003)
- 〒226 横浜市緑区十日市場町
- 一八六五
- 昭和大学医療技術短期大学
- 看護学科
- (〇四五-一九八五-一六五三-一)
- 桜井あ江子 (No.97-004)
- 〒567 茨木市中穂積二-一六-二九
- (〇七二六-二三-二-二二六)
- 荒井 幸子 (No.97-005)
- 〒995 山形県村山市岡新町
- 一-二八-一三七
- (〇二三七-一五三-二七九八)
- 本間可奈子 (No.97-006)
- 〒441 静岡県駿東郡清水町柿田
- 九八三官舎一四-一
- (〇五五九-七五-一七七)
- 藪下 八重 (No.97-007)
- 〒642 和歌山県海南市大野中
- 九四五-四
- (〇七三四-八二-九八五六)
- 岩永智恵子 (No.97-008)
- 〒114 東京都北区田端
- 三-二-一五-三〇二
- (〇三-三八二四-二-二〇)
- 奥田 弘恵 (No.97-009)
- 〒612 京都市伏見区下油掛町一五九
- アンピール伏見桃山三〇六
- (〇七五-一六〇-三-六三九六)
- 赤星 誠 (No.97-010)
- 〒880 宮崎市希望ヶ丘
- 三-七-一三
- (〇九八五-五六-一三六九九)
- 寺山 範子 (No.97-011)
- 〒981-31 仙台市泉区高森六-一-一
- (〇二二-三三七七-七〇三五)
- 柴野千恵子 (No.97-012)
- 〒235 横浜市磯子区洋光台
- 五-一六-一五-五〇三
- (〇四五-一八三二-三三七二)
- 仲里 幸子 (No.97-013)
- 〒901-21 沖縄県浦添市前田町
- 一-二九七-一
- (〇九八-一八七九-〇-一四九)
- 田村 典子 (No.97-014)
- 〒723 広島県三原市学園町一-一
- 広島県立保健福祉短期大学

会員の移動等について

- ◎勤務先・自宅住所等の変更
- 〒880 宮崎県大字郡司分薦ヶ迫乙
- 二二〇三
- 宮崎県立看護大学
- (〇九八五-五九-七七四九)
- 山田 要子 (No.89-005)
- 〒259-11 神奈川県伊勢原市望星台
- 東海大学健康科学部基礎看護講座
- (〇四三六-九〇-二〇四八)
- 田中 幸子 (No.87-062)
- 〒229 神奈川県相模市緑ヶ丘
- 一-一-一三-三〇一
- ◎会報等の連絡先変更
- 正田美智子 (No.93-017)
- 〒372 伊勢崎市三和町
- 二二〇〇-二
- ◎退会者
- 内藤寿喜子 (No.88-011)
- 加藤奈智子 (No.93-021)
- 野村 陽子 (No.95-017)
- 以上、敬称略
- ※この社会情勢の中、看護職の移動が非常に頻繁です。住所変更等の場合、ファックスでも結構ですので、必ず事務局へご連絡下さい。

◆テレカ再発行(保健婦)  
「保健婦助産婦看護婦法」が制定されて50年目です。本会ではこれを記念して、保健婦(図案は山形の農村保健婦)、助産婦、看護婦のテレカを再発行しています。各料金は一枚八百円です。お申し込みは亀山まで葉書をお願いします。

◆会費納入のお願い  
滞納されている方は、至急未納額を振り込んで下さい。  
会則第六条の規定により、年会費を三年以上滞納した者は、会員の資格を失うこととなりますのでご留意下さい。  
郵便振替口座番号  
〇一〇一〇一-一五二一八五  
日本看護歴史学会

日本看護歴史学会会報第二八号  
編集責任者 神戸市看護大学  
発行責任者 京都府立医科大学 玄田公子  
医療技術短期大学部 岡山寧子・福本 恵  
事務局  
〒602 京都市上京区清和院口  
寺町東入  
京都府立医科大学  
医療技術短期大学部  
岡山寧子・福本 恵  
TEL 〇七五-二二-一五四四二  
FAX 〇七五-二二-一五四二三 (岡山)